

伶楽舎の紹介

伶楽舎は日本の伝統音楽「雅楽」の演奏と研究のために1985年に芝祐靖が創設した雅楽演奏団体です。創設以来、音楽監督を芝祐靖(1935-2019、平成29年度文化勲章受章)が務めました。現音楽監督・宮田まゆみ。現在約30名の演奏家たちが活動を行っています。伶楽舎は、昔から現在まで伝わる雅楽の古典曲以外にも、現代の作曲家が作曲した新しい雅楽作品や、長い年月の間に演奏法がわからなくなってしまった作品(廃絶曲)、また、正倉院に残されていた楽器を復元しての演奏など、古いものから新しいものまで、幅広く取り上げて演奏しています。日本を代表する作曲家・武満徹の雅楽作品「秋庭歌一具」の演奏では中島健蔵音楽賞特別賞を受賞。2016年度佐治敬三賞受賞。2020年「第50回ENEOS音楽賞邦楽部門」受賞。2025年「第45回伝統文化ポーラ賞優秀賞」受賞。他に、雅楽の古典曲や復元楽器の曲など多数CDに録音しています。また、伶楽舎の企画による自主演奏会では、新しい作品の初演や大曲の演奏などに積極的に取り組んでいるほか、解説を交えた親しみやすいコンサートや小中高校生を対象としたワークショップ、レクチャーコンサートなども行っています。国内各地の他、アメリカやヨーロッパなどからも招かれて何度も演奏しており、日本の雅楽を世界に広める役割を果たしています。

<http://www.reigakusha.com>



【令和7年度 学校巡回公演 出演者】

伊崎善之、石川 高、国本淑恵、五月女愛、笹本武志、**野護元**、鈴木絵理、田淵勝彦、角田眞美、

中村華子、中村仁美、野田美香、平井裕子、三浦礼美、宮丸直子

● 令和7年度「学校巡回公演」 〈邦楽公演〉雅楽 実施日程

実施日

11月 7日 (金)	きん ふちゅう し りつじょうげみなみしょうがっこう 府中市立上下南小学校
11月10日 (月)	げつ いはら し りつびせいちゅうがっこう 井原市立美星中学校
11月11日 (火)	か みよし し りつ き さちゅうがっこう 三次市立吉舎中学校
11月12日 (水)	すい ひろしまけんりつくれみなとくべつし えんがっこう 広島県立呉南特別支援学校
11月13日 (木)	もく いわくに し りつ つ づしょうがっこう 岩国市立通津小学校
11月14日 (金)	きん ひがしひろしま し りつ た かみ おかちゅうがっこう 東広島市立高美が丘中学校
11月17日 (月)	げつ ふくやま し りつふくそうしょうがっこう 福山市立福相小学校

令和7年度 学校巡回公演

伶楽舎 子どものための雅楽コンサート 〈邦楽公演〉



がっこうじゅんかいこうえん

「学校巡回公演」

全国の小学校・中学校等においてトップレベルの文化芸術団体による巡回公演を行う

ことを通じて、将来を担うすべての子供たちの豊かな感性を育む場を作り、芸術鑑賞能力の向上を図るとともに、文化的な地域格差の解消を促進することを目的としています。

ワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演においては、子供たちが参加できる工夫を行います。



ぶたいげいじゅつとうそうごうしえんじぎょう 学校巡回公演 独立行政法人日本芸術文化振興会

れ わ ね ぶ が っ こ う じ ゅ ん か い こ う え ん
令和7年度 学校巡回公演

が が く れ い が く し ゃ ほ う が く こ う え ん
雅楽「伶楽舎」＜邦楽公演＞

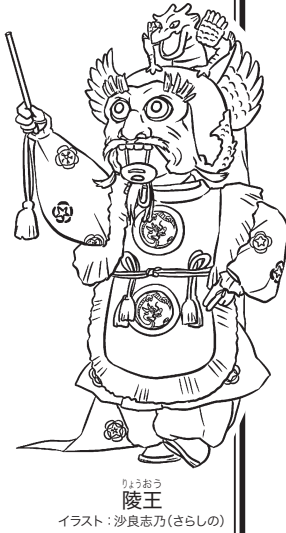
プログラム (中学校)

第1部 雅楽^{だいがく}ってなあに？ 楽器^{がっき}の音^{おと}を聴^きいてみよう

- しょうが えてんらく えてんらくいまよう がっそう
・唱歌の「越天楽」や「越天楽今様」をうたって合奏してみよう
 - かんげん ひょうじょうのねとり えてんらく ばいろ かんしょう
・管絃「平調音取」「越天楽」「陪臚」を鑑賞しよう
 - ほか きょく き ほし やまね あき こさききく
・他の曲も聴いてみよう 「星のテンテンテン」より（山根明季子作曲）
- ほか
「あんたがたどこさ」他

だい ぶ ぶ が く かんしょう
第2部 舞楽を鑑賞しよう

- 代表的な舞楽「だいいひょうてき陵王ぶがく りやうおう」(左方)と「さほう な そ りきゅう うほう納曽利急」(右方)をみてみよう
- ふた二つの舞楽ぶがくの装束しょうぞくや舞まい、音楽おんがくを比較ひかくしてみよう
- えんそうかい演奏会さいごの最後えんそうに演奏ちやうげいしされる「き長慶子」も聴いてみよう



みなさんは「雅楽」を聴いたことがありますか？

じんじや まつり けっこんしき き ひと
神社のお祭や結婚式のときに聴いたことがある、という人もいかもしれませんね。

「雅楽」は、千年以上もの長い間、ずっと日本に伝えられてきた音楽です。

もともとは5～9世紀ごろに中国や朝鮮半島から日本に伝えられた外国の音楽だったのですが、

しだいに日本に合うようにととのえられ、日本人が作った曲も加えられました。

へいあんじだい きぞく ががく がっそう たの
平安時代の貴族たちは、雅楽を合奏するのが楽しみのひとつでした。

いま きゅうちゅう じんじゃ てら ぎしき ひつよう おんがく たいせつ えんそう
今でも 宮中 や神社、お寺の儀式に必要な音楽として大切に演奏されています。

みなさんの聴きなれた音楽とはずいぶん違うでしょうが、

ぜび、ひとつひとつの楽器の個性^{がっき こせいてき ひび}的な響きと、

ゆったりとした時間の流れを感じながら、聴いてみてください。

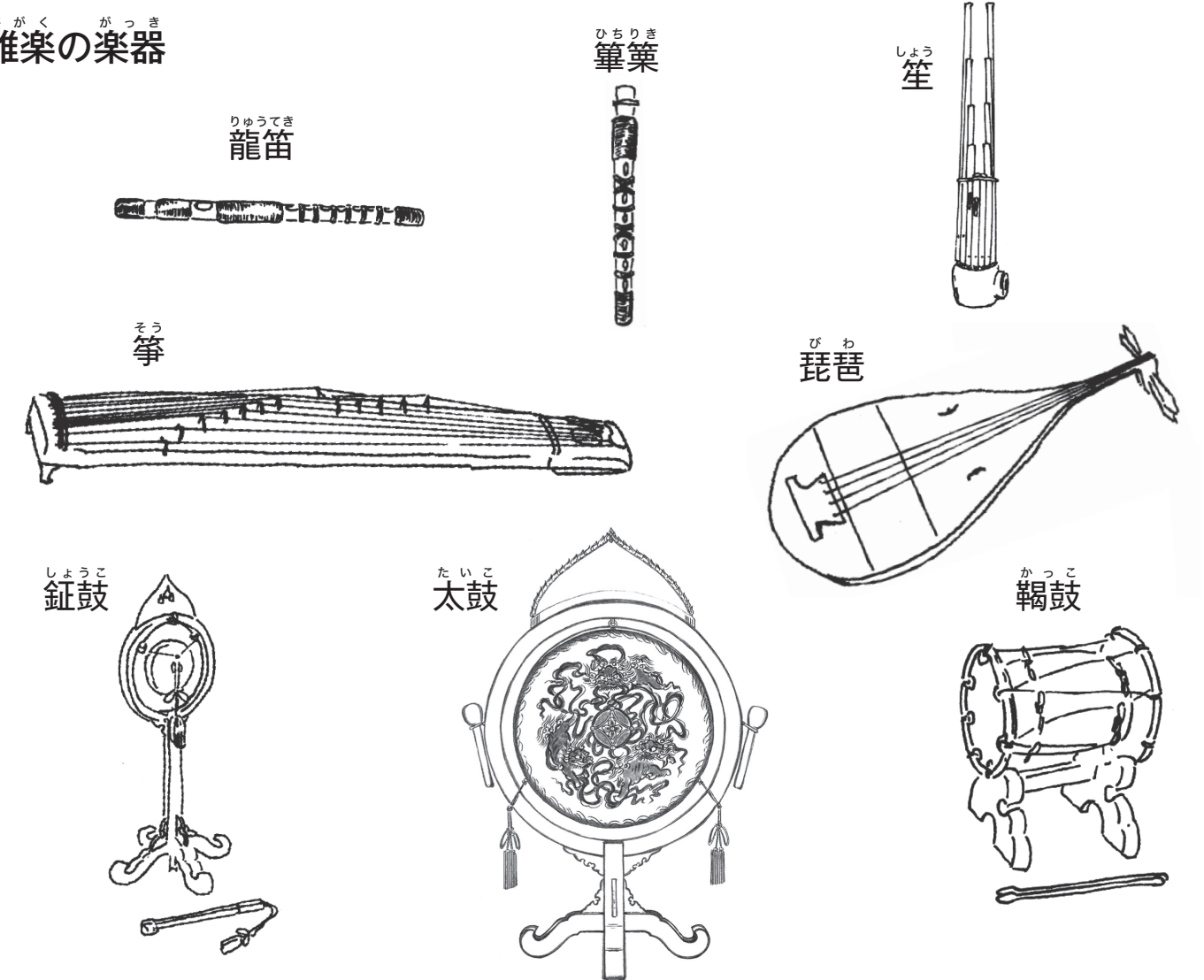
第二部では舞楽をご紹介します。

でんとうてき　ぶ　がく　さ　ほう　う　ほう　に　しゅるい　わ
伝統的な舞楽は左方と右方の二種類に分けられますが、

なか だいひょうてき きんぐ えら まい ぶ しょうぞく おんがく ちが ひ か く かんしょう
その中から、それぞれ代表的な曲を選び、舞振り、装束、音楽がどのように違うかなど、比較して鑑賞します。

豪華な装束や勢いのある演奏をたっぷりお楽しみ下さい。

が が く が っ き
雅楽の楽器



「越えてんらくいまよう天楽今様」歌かし詞

1. 春の弥生の あけぼのに
四方の山辺を見わたせば
花ざかりかも 白雲の
かからぬ峯こそ なかりけれ
2. 花橘も 匂うなり
軒のあやめも かおるなり
夕ぐれさまの 五月雨に
山ほととぎす 名のるなり
3. 秋のはじめに なりぬれば
今年も半ばは 過ぎにけり
わが夜ふけゆく 月かげの
傾く見るこそ あわれなれ
4. 冬の夜寒の 朝ぼらけ
契りし山路は 雪深し
心のあとと つかねども
思いやるこそ あわれなれ

〔雅楽の樂譜〕

がく がくふ
えん てん らん
ひちりき しやうが
(筆樂の唱歌)
しやうきよく
は、ひようし
すまにひやうじんわえ
ひようしはち
ごじゆうに

越天樂 小曲

早四拍子 拍子ハ
末二拍子如 後度三

頭重
四タアハアアタリイト口エ口リイ川返ニ
・トラホサト型タ型テトリトサアルラア返ニ
・千ラロルダアルア千ラムテリンダアルラア返ニ
・四口ロルサアルア四ラムテリンダアルラア返ニ